

INFORMATION

No. 0903-07

検査内容変更のお知らせ(3)

お得意様各位
謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、下記の項目につきまして、検査内容を変更させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒宜しくご了承のほどお願い申し上げます。

敬具

記

変更内容

検査項目名	変更箇所	新	旧
細胞診検査 子宮頸部細胞診	報告様式	CLASS分類 / ベセスダシステムの分類 の併記	CLASS分類のみの記載

現在、日本で使用している子宮頸部細胞診報告様式は、日本産婦人科医会が作成した「日母分類 (CLASS分類)」が使用されております。しかし、近年の細胞診断学、分子生物学の進歩に伴い、新しいエビデンスを取り入れた報告書形式を作成する必要性が求められております。

この状況下において、今回日本産婦人科医会より「ベセスダシステム2001準拠」に基づいた報告書形式の日母分類の改定が行われました。

上述の状況を踏まえ、この度、弊社におきましては平成21年4月より細胞診報告書の従来の報告様式と併記して改訂された報告書形式によるご報告をいたします。

(裏面参照)

変更実施期日

平成21年 4月 1日 (火) 受付分より

株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

* お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

ベセスダシステムとCLASS分類

日母分類の主な改訂部分

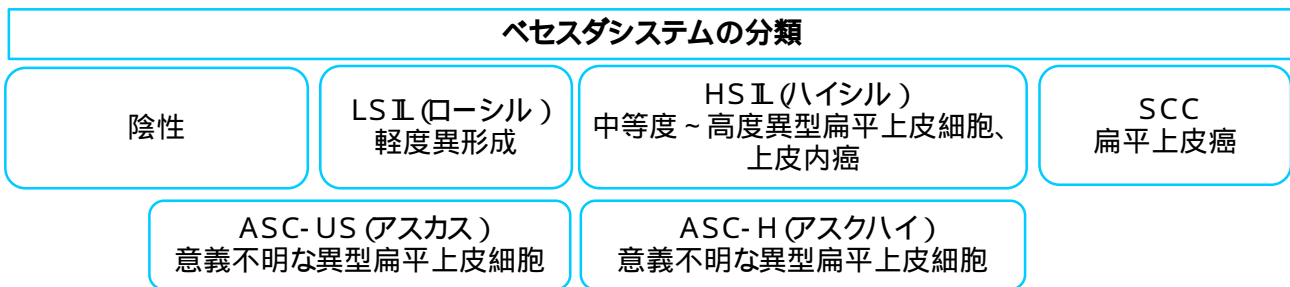
1. 標本の適正・不適正を評価し不良 (不適正) 標本をなくす。
2. 細胞所見・形態学的所見を検査結果に反映させ、可能な限りの推定病変を記述する。
3. 診断困難な異型細胞に対して新しいクライテリアを設ける。(ASC-US、ASC-H)
4. HPV関与のエビデンスを取り入れる。

標本の適正・不適正

適正標本・・・ 保存状態がよく、鮮明に見える扁平上皮細胞が標本上、直接塗抹法では、約8000～12000個、LBC法(液状検体)では約5000個以上です。

不適正標本・・・ 評価可能な扁平上皮細胞が非常に少ないとき、過度な乾燥によるアーチファクトが著明なとき、血液や炎症細胞で標本が不鮮明になっているときなどが当てはまります。

ベセスダシステムとCLASS分類の比較



	a(軽度・中等度)	b(高度)
従来のCLASS分類		

陰性	異型細胞や悪性所見を認めない標本を指します。 その他 ・感染症(カンジダ、トリコモナス など) ・炎症性変化 ・萎縮性変化 が該当します。これらの所見は、報告書に記載されます。
ASC-US	軽度な異型がみられ、LSILが疑われるが、LSILの診断基準を満たさないもの。 CLASS ~ aに相当
LSIL	HPV感染(コイロサイトーシス)ならびに軽度異形成のもの。 CLASS aに相当
ASC-H	中等度異形成以上の高度な病変が疑われるが、断定できないもの。 CLASS a、bに相当
HSIL	中等度異形成、高度異形成、上皮内癌までを包括した概念のもの。 CLASS b に相当